

イネ苗立枯病、苗いもちの発生に注意しましょう!!

4月から5月の気温は平年並み～高い予報となっています。苗が5℃以下の低温や30℃以上の高温に遭遇すると苗立枯病が発生しやすくなり、病気の発生状況は温度管理によって大きく変わります。適正な温度管理と播種時の薬剤散布により、健苗づくりに努めましょう。また、育苗箱などの資材は必ず洗浄、消毒し、育苗ハウス内に前年のわらやもみ殻など感染源がないかの最終確認を行いましょう。

1)育苗温度

浸種期間・・・20℃を超えないようにする。

出芽期間・・・30℃を超えないようにする。

育苗期間・・・夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないようにする。

■細菌性病害は気温が高いと発生しやすく、高温管理で爆発的に蔓延する。快晴時には早めにハウスの換気を行う。

■カビによる立枯病は夜間の温度が低いと発生しやすい。低温時には保温対策をする。

2)水管理

■天気の良い日の午前中にたっぷり灌水し、床土の極端な乾燥・過湿は避ける。

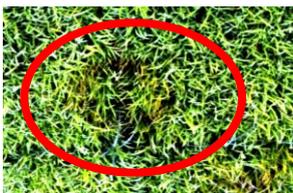
■ムレ苗予防のため育苗初期から中期の過灌水を避ける。

3)床土

■病原菌に好適な環境にしないよう、pHは4.5～5.1程度とし、厚播き・多肥は避ける。

対象	薬剤名	使用時期	使用濃度	使用量/箱※	使用回数
フザリウム菌 ピシウム菌 ムレ苗防止	タチガレン液剤	播種時又は発芽後	1000倍	1L土壌灌注	2回以内
	タチガレエースM液剤		500～1000倍	500mL土壌灌注	
				1000倍	1L土壌灌注
リゾプス菌	ダコニール1000	播種時から緑化期 但し播種14日後まで	500～1000倍	500mL土壌灌注	2回以内
			1000～2000倍	1L土壌灌注	
トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾプス菌	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し播種14日後まで	400～600倍	0.5L灌注	2回以内
			800～1200倍	1L灌注	
幼苗腐敗症(もみ 枯細菌病菌) 褐条病 苗立枯細菌病	カスミン粒剤	覆土前	—	15～20gを育苗箱には種した種籾の上から均一に散布	1回

■もみ枯細菌病等の細菌性病害は、発生後の防除薬剤はない。特に5月中旬移植用の苗で、ハウス内の高温、多湿が予想される場合は、播種時に前もって薬剤防除する。



ピシウム菌による苗立枯病
(ムレ苗)



フザリウム菌



苗立枯細菌病



褐条病

令和5年度農作物病害虫防除指針 <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html>

◇◇◇ 最新の農業登録情報 (<http://pesticide.maff.go.jp>) を確認して下さい ◇◇◇

福井県農業試験場病害虫防除室 連絡先 0776(54)5100

福井県病害虫防除室 🔍 検索

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>
QRコードをスキャンしてください →

